

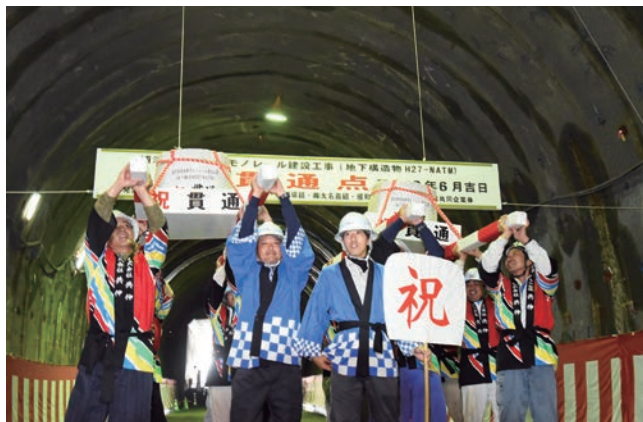


6/10(土) 子どもたちのぶつかり合いに会場が湧く

市内小学校の学年別に相撲の最強を決める「第30回ちびっこわんぱく相撲浦添大会」が、浦添運動公園内の相撲場で行われました。この大会で優勝すると、全国大会への出場権が得られるとあって、子どもたちはとても気合が入ります。子どもたちの親も親戚を連れての大応援で、会場は超満員でした。

試合が始まると、子どもたちは今まで磨いてきた力と技を披露。そして技が華麗に決まると会場が震えるほどの歓声が沸き、大きな拍手が送られ「いい試合だった!」と褒め称える言葉も飛び交いました。

激戦を制した5年生の加藤龍之介君は「優勝でき、とても嬉しかったです」とうれし涙を流しながら答えてくれました。



6/13(火) 県内初、モノレール専用トンネルの貫通

昨年8月からスタートした浦添西原線モノレール専用トンネルの掘削作業が完了し、貫通式が執り行われました。

工事関係者や沖縄都市モノレール関係者、地元自治会長らが参加し、県内初のモノレール専用トンネルの貫通を祝って会場は大にぎわいでした。

式では貫通点を清めたあと「わっしょい、わっしょい」という掛け声とともに、2つの樽神輿が入場してトンネルの貫通を祝いました。

浦添西原線モノレールは平成31年春に開業を目指して工事が着々と進み、観光や生活の面で浦添市の活力として大きな力を発揮してくれると期待が高まっています。



6/9(金) ライバルの7連覇を阻止し、念願の優勝!

当山小学校6年生の上地翔汰くん、上地翔人くん、屋嘉咄連くんの3人が文部科学大臣杯小・中学校将棋団体戦沖縄大会の優勝を報告しました。

昨年のリベンジを果たす思いで相手や将棋盤をしっかり見て指すことを意識したという今大会。上地翔汰くんと屋嘉咄連くんは「優勝した時は信じられなかった」と大きなトロフィーを持って嬉しそうでした。

7月25日に行われる西日本大会への意気込みを上地翔人くんは「3人幼稚園の頃から一緒にいるのでチームワークで1戦1戦を大切に勝っていききたい」と述べました。



6/8(木) 認定子ども園の本格始動に向けて

浦添市では平成32年度までに市内11か所の市立幼稚園を「幼保連携型」の認定子ども園へ順次移行する計画をしています。

来年先行して認定子ども園へ移行を予定している仲西幼稚園にて、市民を対象にした説明会が6月8日(木)に開催されました。

子育て世代にとって、保育の問題は重大な関心事であることもあって、多くの保護者からは「何が変わるのか」「保育の質は保てるのか」「保育士不足の問題は」などの質問が寄せられ、活発な意見交換が展開されました。



6/12(月) 元気なあいさつでフレッシュな朝

希望と意欲に満ちた、たくましい青少年の健全育成の為、浦添市全域で「愛の声かけー斉早朝コール作戦」が実施されました。

メイン会場となった内間交差点では、各自治会やPTA、警察、近隣の小中高校の生徒など多くの参加者が見受けられ、あちらこちらで元気なあいさつが交わされていました。

内間小学校5年生の浦崎勢心くんは「今日は6時半に起きました。あいさつするときにはお腹から声を出すようにしています」と笑顔で話しました。



5/31(水) 「全員参加の社会づくり」の実現に向けて

市長と那覇公共職業安定所阿部所長は、浦添商工会議所に「学卒求人確保及び求人票の早期提出を求める」内容の要請書を手渡しました。この要請は「全員参加社会」の実現を目指し、「県内高校生の就職内定率が低いこと」と「求人提出の時期が全国と比べて非常に遅いこと」を改善する目的で行われました。

要請を受けた浦添商工会議所の池宮副会頭は「県経済の自立的発展にも繋がることから社会全体で共通認識のもと行動していかなければならない課題と考えている。商工会議所としても会員企業への周知等、できる限りの支援を行っていききたい」と力強く語りました。



5/31(水) 長年勤続・退職する自治会長に感謝状

自治会長退職者および長年勤続者への感謝状贈呈式が市役所で行われました。今回表彰されたのは、退職する上原茂さん(経塚)、名嘉山兼正さん(茶山)、上原健二さん(安川)と、10年以上自治会長を務めている現役の志良堂勝子さん(県営経塚団地)の4人。

茶山自治会長を退職する名嘉山兼正さんは「30代から地域の皆さんや市の行政と一緒に自治会を運営してきた。引退しても足腰が丈夫なうちは、市や自治会に協力していきたい」と今後についての意気込みを語りました。集まった現職の自治会長たちからは温かい拍手が送られました。

